磐域の珠算合格者

▽二級　箱崎妙子　水町町子　松本恵美子　伊藤タイ子　小林哲子　斉藤貴一　大和田甚康　遠藤伸江　相馬登司雄　馬上稜子　安部由美子　佐藤初江　志賀義行　小野孝子　丹野清子　四家　孝子　鈴木一郎　薄木信康　笹川　芳子　坂本哲一郎　吉田好子　井川好子　斉藤静恵　佐原　敏夫　茂木徳英　山野辺幸子　中野興子　吉田英雄　渡辺孝太郎　矢戸照子　中野節子　箱崎　ツ子　箱崎英代子　松原　功　田辺徳二　志賀義行　杉本義江　志賀和子　永源芳子　丹野清子　四家　孝子　鈴木一郎　薄木信康　笹川　芳子　坂本哲一郎　吉田好子　井川好子　斉藤静恵　佐原　敏夫　茂木徳英　山野辺幸子　中野興子　吉田英雄　渡辺孝太郎　郡司千恵子　馬目　晃　林　四十三　武藤末男　茂木徳英　山野辺幸子　松原フミエ　坂本　幸

▽四級　里野　正　吉田光江　佐木義信　常川ヒロ子　田村豊子　佐々木義信　常川ヒロ子　長瀬和英　鈴木ちえ子　大竹芭子　村上孝雄　小島　幸　大和田子　池端　早苗　柳内豊子　小野康次　金子　富子　斉藤テル子　竹村節子　中野光江　加藤幸江　斎田佐代子　中村れい子　相楽近雄　金成京子　紺野英津子　箱崎もと　渡辺京子　中田　時枝　南部一郎　岡山光一　岡山久英子　岡山孝子　太田　正　佐藤邦雄　志賀正好　笹川　照夫　藤井　孝子　佐藤邦雄　志賀正行　青出久夫　坂本　栄　竹永　洋子　海老根英一　吉田久美子　馬目光道　加沢松源　小林英子　渡辺春江　渡辺信枝　佐藤政雄　太　節子　鈴木マリ子　石井初枝　吉田勢子　小林田子　松江川豊子　上遠野政男　石井初枝　吉田敬子　吉田芳江　小林田子　松江川豊子　五十嵐由英子　大井川あきよ　紺野英知子　小泉康恵　石川洋子　目沢良子　細野英知子　長瀬仁一　長瀬義四郎　白土健一　渡辺陽子　吉田好江　小野田英子　田中三郎　尾森いえ子　長瀬谷幸子　岡島英恵子　国井陽子　青木恵子　吉田　功　目沢良子　細野英知子　長瀬仁一　長瀬義四郎　白土健一　渡辺陽子　吉田好江　小野田英子　田中三郎　尾森いえ子　長瀬谷幸子　岡島英恵子　国井陽子　青木恵子　吉田　功　太平　渉　吉田孝幸　田中　鈴枝

▽六級　永瀬克己　佐藤伸一　荒賀一郎　山田雄一　小野　順一　伊藤得子　佐藤英栄子　阿部忠洋　中村　博　宮崎　裕子　佐藤英栄子　岡山久英子　岡山孝子　太　正　佐藤邦雄　志賀正行　作山幸子　高橋博子　吉田則子　吉田スミエ　石川京子　皆川京子　大木　光子　上遠野節子　牧野　進　武田京子　宮崎健一　宮島真一

▽七級　番場真知子　斉藤謙二　上遠野陸子　坂本雅代子　石川　保　小田久子　小松幸子　佐藤英栄子　佐藤正行　永山　伸　岡山幸夫　赤間　一夫　小田久子　菊地幸光　高家　正勝　石川京子　皆川京子　赤間　哲夫　東海林さち子　大木　光子　上遠野節子　牧野　進　武田京子　宮崎健一　宮島真一　箱崎もと　渡辺京子　中田　時枝　佐藤邦雄　志賀正行　作山幸子　高家　正勝　佐藤邦雄　志賀正好　笹川　照夫　藤井　孝子　佐藤邦雄　志賀正行　青野　

珠算検定合格者

平市

6級　高野悠一　小山一博　砂押里江　鈴木貴美枝　宮西生子　堀沢けい子　鈴木淑子　佐藤悦子
臼土敏夫　町井平八郎　新妻恵津子　明石俊男　金沢　巴　遠藤一枝　河村　真　伊藤祥子　鈴木元子
佐々木幸枝　石川百合子　木村富一　山本豊子　今泉道子　阿部喜美　高橋すみ子　蛭田美佐子　田代恵子
中沢義博　飛田久子　湯沢妙子　大森光子　鈴木光子　坂本恵美子　蛭田悦子　古瀬敬次　鷲　頃子
渡辺えり子　赤津まさ子　小宅明仁　池田政利　新妻和歌夫　阿部正国　蛭田ケイ子　佐藤孟雄　櫓田幸子
水野尚子　小野悦子　志賀徳郎　遠藤寿洋　鈴木茂正　宮内貞子　坂本良子　相楽善子　相楽秀子
石井康雄　高木技美子　佐藤幸子　吉田千代子　白石アサヨ　菊地幸郎　早坂とも子　櫓田芳江　青柳順子
高橋英知枝　吉田牧子　松田一枝　遠藤妙子　大森芳子　新妻勇吉　秋山シマ子　相楽秀子　櫓田幸子
新妻道子　森田　茂　新妻美枝子　八木沼伸一　草野よう子　本田豊二　八木沼英夫　吉田一美　川崎吹雪　佐川雅子　孫井敏枝子　孫元英子　永山　泉　佐藤勝子　谷平ミヨシ　山野辺昌子
川崎敏子　猪狩貴一　美　五十嵐敏子　八島あき子　緑川　孝　南川せつ子　水鏡チヨ　遠藤一司　金成ひろ子　佐藤勝子　谷平ミヨシ　山野辺昌子

近江旁郎　小林　繁　猪狩留美子　宮沢利雄　宮岡　実　松本　啓二
安島正久　安島三枝子　さう谷克子　倉住英智子　渡辺鴎子　千坂　進
馬場信子　吉田幸子　安田友紀　泉　静雄　手代木高則　鈴木静子
白石　通　半沢時子　佐川久子　吹野利子　矢内正裕　東本　喜一　合津　功　増子絹枝　宮本　一夫
丹内寛子　滝原孝二　渡辺宗吉　大谷好和　今江久子　蛭谷まさ子　渡辺節子　後藤由美子　岡部利男子
黒上吉夫　草野礼子　青木　誠　合津　功　増子絹枝　宮本　一夫　雪原恵一　佐藤栄市　青木美和子
草野学子　渡辺或治　吉田五月　渡辺節子　後藤由美子　岡部利男子　高島勝治　飯塚雄　加藤　和子
吉田美智子　酒井浩子　佐藤澄江　雪原恵一　佐藤栄市　青木美和子　佐藤美代子　宮本良子　猪狩正治
阿部豊子　渡辺悠子　阿部和夫　渡辺節子　後藤由美子　細貝美佐子　藤山正広　高島勝治　飯塚雄　加藤　和子
緒方幸子　櫓田芳江　青柳順子　佐藤美代子　宮本良子　猪狩正治　高木貴夫　吉田　実　中里　敏子
孫元英子　永山　泉　佐川雅子　遠藤クニ子

春の足音も近ずく

温室には花が咲き競う

（写真はい主盛りのカーネーション）

立春もすぎた石城地方はひと雨ごとに暖かくなり、春の足音が聞えと野山は緑に色づきはじめた。ここヘルスセンターにあるカーネーションも一本十五円の高値で飛ぶように売れている。カーネーションは江戸時代に渡来した欧州原産の園芸植物。多数の品種が作られ、花の色もさまざまであり、日本でも五月十四日の〃母の日〃にお母さんに感謝する意味から記念に胸につけるようになった。

ヘルスセンターの園芸場では一足先きに南国情緒を思わせ、カーネーションのほかスミレなど赤や緑色の花数種類が咲きほこって、訪れる乙女たちのほほをなでている。

瓦坪五十円値上げ

四倉セメント瓦協で

四倉町の四倉セメント瓦協同組合は瓦の販売価格を一割方値上げしたことの程度総会を開き、二月から値上げしたこれは人件費と原料値上りにの。

よるものだが、工場渡し三・三平方米五百二十円のものが五百七十円と坪当り五十円値上げされたもの。

百%の就職率示す

磐農工の今春卒生が

県立磐城工高校の今春卒業生の就職状況がこのほどまとまった。それによると機械科の卒業生三十一人、農業科百人のうち進学二人を除く二十五人がそれぞれ完全就職が決まった。また家庭科の就職希望者十九人も就職率百%の好成績をおさめた。

職種を見ると機械科のほとんどが現在の機械工場の技術者として就職、農業科の二十五人も近在の工場、また家庭科卒の女子は事務店員として採用されることになった。

明日への希望

常磐市　大竹　恵美子

私たちが一社会人として認められ世の中に出られたことは何ともいわれぬ喜ばしいことであります思えば昭和十五年この世に第一声をあげてから実に二十年の才月が流れたのです。この間は満足感を感じることができず、成長できるかどうかが疑わしい時代でした。そして敗戦となり、なお一層苦しい日々が続きました。お米も満足に食べられず、まずいも類、下等な野菜類などからみれば食べられそうもないような原始的な食物ばかり食べて生きてきました。

私が幼稚園の時、選足へ行くのにさうまいもばかり持って行ったのを憶えております。満足な学用品もなく、カバンを買うにも学校でクジ引きをしてから商店で品物を買う始末でした。

いわば六、三、三、四の目の満足感を感じることができず、成長できるかどうかが疑わしい時代でした。そして敗戦となり、なお一層苦しい日々が続きました。お米も満足に食べられず、まずいも類、下等な野菜類などからみれば食べられそうもないような原始的な食物ばかり食べて生きてきました。

私が幼稚園の時、選足へ行くのにさうまいもばかり持って行ったのを憶えております。満足な学用品もなく、カバンを買うにも学校でクジ引きをしてから商店で品物を買う始末でした。

いわば六、三、三、四の目の満足感を感じることができず、成長できるかどうかが疑わしい時代でした。そして敗戦となり、なお一層苦しい日々が続きました。お米も満足に食べられず、まずいも類、下等な野菜類などからみれば食べられそうもないような原始的な食物ばかり食べて生きてきました。

戦争の苦しみをもう二度と味わいたくありません。日本がそして世界が一つになり平和な日が来るのはいつでしょうか、それは我々国民です。

すでに米国とソ連の対立を中心とした第三次世界大戦が始まってくるような気がします。でもこれを争ってはいけません。人類も最後を迎えなければならないでしょう。この考えを破壊し、住み良い日本を、より良い世界を平和にするのが私達二十代のこれからの仕事です。

敗戦後の日本もようやく建ちなおり、自由となりました。それに従い新しい思想のもとで私たちも生活に突入しております。

先日も友人といっしょに流行は青少年の間で起こるかということを感覚をのべあいましたが、結末はまとまりませんでした。青年層は、自由に束縛されず、世の中を悠々とのんきに、自由自在に遊び過ごしております。

たとえば、いろいろな悩みを解決できずにいます。ある人は物思いにふけったあげくさめざめとなり、ある人は酒を飲むことによってまぎらわし、またある人はマンボスタイル、ビート族などと言って一風変った姿でいるという風にして気晴らしにこのような事をして悩みを忘れ去ろうとしておりますが、一方では悩みなどは知らないでマンボスタイルなどを楽しんで喜んでいる始末です。

こんではじめて流行というものが青年たちの間で起るわけです。中年、老年の人はそうは行きません。仕事の忙しさ家庭内のさまざまな出来ごとなどで結局自由を束縛されず、流行など追っておらず、また半は行動できないのをあきらめている始末だとい